

折に触れ 四字熟語

NO. 64 〔一暴十寒〕 いちばく じっかん

< 意味 > 少しだけ努力して、あとは怠けることが多いたとえ。気が変わりやすく、ちょっと努力するだけで怠けることが多いたとえ。また、あるところで努力して、あるところでそれを打ち破るたとえ。一日目にこれを日に曝して暖めたかと思うと、次の十日これを陰で冷やす意から。

< 出典 > 「孟子」<告子>

「孟子曰、無或乎王之不智也。雖有天下易生之物也、一日暴之、十日寒之、未有能生者也。吾見亦罕矣、吾退而寒之者至矣。吾如有萌焉何哉。……」

読み下し：『孟子曰く、「王の不智を或^{あや}しむなかれ。天下生じ易き物ありといえども、一日これを暴^{あたた}め、十日これを寒^{ひや}さば、いまだよく生ずる者あらざるなり。われ見^{まみ}ゆることまた罕^{まれ}なり。われ退きてこれを寒^{ひや}する者至る。われ萌^{きざ}すことあるをいかんせんや。……』

通 釈： 齊の宣王が愚かになるのも不思議はない。どんなに芽を出しやすい種でも、一日温めて十日冷やせば、とうてい芽を出すことはできないからだ。わたしが王に会うのは時たまのことだ。わたしが退出したとたん、冷やす者が大勢現われるのでは、せっかく温めて芽ばえさせようとしても、どうにもならない。

語 釈： 「暴」「曝」と同じで、日に曝して暖める意。

一 言： 寒シリーズその2

寒いという意味ではなく、頭寒足熱の場合の使い方、冷やすの意味です。「十寒一暴」ともいいます。

参考文献： 徳間書店・中国の思想・今里禎訳「孟子」 三省堂「四字熟語辞典」